

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式					
AM15Z017		化学II (Chemistry II)					導入教育科目 自然・科学		オンライン（オンデマ ンド型、含 対面）					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
必修	1	1	医学部医学科	前期	木1	日本語		単独						
担当教員	氏名 下田 恵（医）													
	E-mail shimoda@oita-u.ac.jp 内線 5606													
授業の概要	医学基礎として重要であり，化合物の立体構造を理解する上で必要となる混成軌道の概念について修得し，原子間結合を理解する。また，分子間結合に基づく，化合物間の相互作用について理解する。単に知識のつめこみではなく，論理的思考能力を養う。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	混成軌道の概念を説明できる							○						
目標2	化合物の立体構造を説明できる							○		○				
目標3	化合物間の相互作用を説明できる							○						
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度（計10）								6		4				
授業の内容														
1	原子軌道													
2	混成軌道													
3	原子間結合													
4	共有結合と立体構造													
5	共鳴安定化													
6	配位結合と錯体													
7	ヘム（Fe-プロトポルフィリンIX錯体）の化学													
8	分子間結合													
9	核酸の立体構造と化学結合													
10	蛋白質の立体構造と化学結合													
11	酵素の基質特異性													
12	酵素阻害薬の結合様式													
13														
14														
15														
ラ イ ク ニ ン グ	A:知識の定着・確認	○	講義において毎回，応用的な小テストの出題を行い，その日の講義内容				工 夫 の 他 の							
	B:意見の表現・交換	○	をまとめさせる。											
	C:応用志向													
	D:知識の活用・創造													
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	参考資料について予習する（10h）。												
	事後学修	小テストについて復習する（10h）。講義ノートを復習する（20h）												
	想定時間合計	40												
教科書	教科書を指定しない。													
参考書	J. M. Berg「ストライヤー生化学」東京化学同人、2018年、ISBN 9784807909292													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末試験		100%	○	○	○							
注意事項	講義はオンラインで行います。 単位の修得には2/3以上の講義への出席が必要です。指定された時間内にMoodleの該当するセクションへアクセスしてください。												
備考													
リンク													
	URL												